

# 令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立泰明小学校

## 学校の教育目標

○よく考える子ども ○思いやりのある子ども ○たくましい子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

児童が、「何のために学ぶのか」を認識し、「何を学ぶのか」が明確に理解でき、「どのように学ぶのか」を考えることができる授業の具現化に努める。そのために、『主体的、創造的な深い学びの実現を図るために、経常的な教材研究、教材開発の推進』をキーワードとし創造性に富んだ授業づくりに励むことを、泰明小学校としての教育実践目標とする。

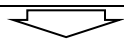
令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、全6領域目標値を上回り、全国の平均正答率も上回っている。しかし、項目によっては、区の平均をやや下回るものもあった。叙述の深い読み取りや表現力については、個人差がある。また、文章を書く問題については、自分の考えを表現することに不得手の児童が一定数いる。また、読み取りに時間がかかり過ぎて大問の記述までたどりつかない児童も数名いた。国語の記述の平均正答率は、4年生75.4%、5年生74.1%で目標値、全国、区の平均正答率を上回っているが、6年生では64.3%と区の平均正答率をわずかに下回っている。	作者や筆者の意図に応じて、話の内容を捉える力が不十分である。また、問題意識にまで踏み込む深い読み取りまでは至らない児童がいる。通塾に割かれる時間が多く、読書、新聞やニュース、さらに日本の言語文化などに触れる機会が少ないことも要因と考えられる。記述については、書く力の個人差が非常に大きいといえる。
算数・数学	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、3学年全てにおいて全4領域目標正答率を上回り、全国の平均正答率も上回っている。また、5年生では区の平均正答率も上回っている。しかし、4年生6年生においては区の平均正答率を下回る領域も見られた。問題の内容別に見ると、4年生では「長さ重さ」の領域、6年生では「割合」や「円グラフや帯グラフ・平均」の領域で課題が見られた。	4年生の「長さ重さ」の単元では、単位を換算する感覚が不十分であることが要因であると考えられる。また、「長さ重さ」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」の全ての単元において、答えを求める計算はできているがその考え方を的確に記述することができていないことが要因と考えられる。
社会	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、全ての領域で、ほぼ全て目標値を上回る、もしくは同程度の結果であった。しかし、6年生の「産業と情報との関わり」「国土の自然環境と国民生活」など、特定の領域では、区の平均正答率を約5%下回った。また、社会的事象について、複数の資料を基に考えたり、工夫を読み取ったりすることに課題が見られた。	資料の読み取り、活用する力が不十分であることが考えられる。社会的な事象への興味・関心の低さが起因している。活躍した人々の姿を知ることや、働く人々の努力や苦労を想像する機会や経験の少なさも要因と考えられる。

理科	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、4年生5年生では、全2領域で目標値を上回っている。また、5年生においては、全国、区の平均正答率も上回っている。しかし、4年生では、「物質・エネルギー」の領域で区の平均正答率を下回り、6年生では2領域ともに区の平均正答率を下回っている。また、実験結果からどのような問題を見いだしたのかを推測したり、仮説を立て問題を解決する実験の方法を構想したりする設問において、著しく正答率が低くなっていた。	4年生6年生ともに、説明を求められる問題について無解答の児童もあり、自分の考えを表現することが不得手である児童が一定数いると考えられる。また、知識や技能はあるものの、そこから類推したり予想したりすることが不得手であると考えられる。
英語	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、「聞くこと」と「読むこと」で目標値を上回っていた。しかし、全3領域で区の平均正答率を下回っている。特に、「書くこと」については、区の平均正答率、全国の平均正答率を約10%下回る結果となった。基本的な表現を推測しながら聞く・読む、そして語順を意識しながら書くことについては個人差が見られる。	知識・技能の定着に大きな個人差がある。苦手意識をもっている児童については、間違えることに抵抗があり、活動に消極的になる傾向がある。また、読む・書くについては、まだ苦手意識や不慣れさがあると考えられる。
体育・保健体育	体力テストの結果は、全学年男女ともに合計得点は全国平均及び東京都平均を上回っていた。種目別では、「50m走」「立ち幅跳び」がやや低い傾向があった。また低学年では「ソフトボール投げ」も低い傾向があり、持久力に課題が見られた。	体力テストは概ね好成績とあって良いが、通塾開始に伴う運動量の減退や、好むスポーツばかりを志向する傾向は運動経験の幅を狭くしていると考えられる。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。</li> <li>「書くこと」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を5ポイント以上上回るようにする。</li> </ul>
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。</li> <li>「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を3ポイント以上上回るようにする。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。</li> <li>「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を5ポイント以上上回るようにする。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和6年度学習力サポートテスト」において、全ての実施学年で中央区参加校の平均を上回るようにする。</li> <li>「知識・技能」及び「思考・判断・表現」において、全ての実施学年で中央区参加校平均を2ポイント以上上回るようにする。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「令和6年度学習力サポートテスト」において、中央区参加校平均を上回るようにする。</li> </ul>
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストの「50m走」において、男子女子共に区の平均を1ポイント以上上回るようにする。</li> <li>体力テストの「立ち幅跳び」において、男子女子共に区の平均</li> </ul>

		<p>を2ポイント以上上回るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの「ソフトボール投げ」において、男子女子共に区の平均を1ポイント以上上回るようにする。</li> </ul>
② 授業改善		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、全ての教員がA B評価を付ける。</li> <li>・O J T研修の一つとして授業参観期間を年2回以上は設定し、互いの授業を見合うことでそれぞれの授業改善につながるようにしていく。</li> </ul>
③ 家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な内容の定着を図ることを目的として、タブレットを活用した家庭学習を取り入れる。提出率は全児童95%を目指す。</li> <li>・年間を通じて地域と連携した活動について協力・参画を促す。</li> </ul>
④ 体力向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力テストの結果より課題の見た「50m走」や「立ち幅跳び」について、都の平均以上を目指す。</li> <li>・マイスクールスポーツの取り組みや「泰明タイム」を充実させ、それが日常の運動や遊びに結びついていくようにする。</li> </ul>



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科のワークシート、音楽・図工の鑑賞場面での書く場面を設定し、様々な文章を書く機会を増やす。</li> <li>・スピーチ活動の機会を増やす。また、話すことや聞くことについては掲示物などを活用しながら児童が意識できる環境を整える。</li> <li>・国語の教科書の「言葉の宝箱」を活用し、語彙力を伸ばすとともに実体験をもとにした文章を書く経験を増やす。「文章を書きたい」という意欲をもたせるようにする。</li> <li>・日本の言語文化に触れる機会を増やす。また、読書活動や辞書で語句を調べる活動を取り入れることで、言語の理解を広げ、深められるようにする。</li> <li>・文章を書くときには、段落ごとに短冊に分けて少しずつ書くことや、タブレット端末を活用することで書くことへの抵抗感を減らせるようにしていく。</li> </ul>
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠をもって自分の考えを書いたり伝えたり考えを再構築したりする学習活動を多く取り入れていく。</li> <li>・丁寧に問題に取り組むことや、立式の成立理由などについて根本から理解させていく。</li> <li>・定規や分度器、コンパスなどを使う理由や特性等を丁寧に指導し、問題に取り組ませていく。</li> <li>・知識・技能における指導では、具体物や半具体物を使い、児童が「単位」など抽象的な概念を実感的に理解できるよう教材の工夫をする。</li> <li>・自力解決の時間を十分に確保する。答えを書くだけでなく、その答えを導き出す過程を大事にする。式だけでなく、文章や図などを取り入れて説明できるように指導していく。</li> <li>・公式の成立理由について、考える時間を十分とり理解させる。</li> <li>・立体の展開、組み立て、見取り方から空間認知能力を育成する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の計算や文章問題を確実に理解させる。</li> <li>・習熟度別学習を充実させ、個にあった学習を進める。また、年1回のオータムスクールでの学びを普段の学習に生かしていけるようにする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての学年において、グラフや表、写真や地図などから読み取る活動を取り入れる。</li> <li>・低学年の生活科で銀座の街の商店や公共施設の体験を通して、そこから考えたことや分かることなどをまとめる学習を行う。</li> <li>・中学年社会科では、七輪体験や洗濯板体験など、先人の活躍、働く人々の努力や苦労を実感できる学習を取り入れる。また、考えたことや思ったことなどをまとめること</li> <li>・高学年は、用語の暗記になりがちなので、資料から自分なりの考えを導いたり、資料を読み取る視点を考えたりすることを学習活動に取り入れる。また、ワークシートやノートなどに書くことで、さらに考察を深められるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知り得た実験結果から何が分かったのか、掘り下げる学習を展開し、論理的かつ科学的に考察を児童一人一人がまとめていけるようにする。</li> <li>・児童に実験方法を考えさせたり、試行錯誤させたりして、科学的な視点をもたせる。</li> <li>・児童が実験方法を考えたり試行錯誤したものを実際に行って検証したりする時間を確保する。</li> <li>・問題に対する予想を考える際には、既習事項だけでなく、生活経験を想起できるような働きかけを行う。また、問題解決の流れを理解し、予想、検証（実験・観察）、結果、結論という授業の流れを確立し、繰り返し指導し、定着させる。</li> <li>・低学年生活科で植物・動物、昆虫などを探し観察する自然体験学習の充実を図る。</li> <li>・中学年理科でプラネタリウムなどを活用し、太陽の動きや天体についての学習をする。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材を使った音声やチャンツなどの反復練習を徹底させる。また、それを生かしてゲームやコミュニケーションをすることで着実に英語表現を身に付けさせたい。</li> <li>・ALTとのコミュニケーションの機会を生かした、会話体験を充実させる。</li> <li>・ALTからのリスニングテストを実施する。</li> <li>・学習の振り返りを行い、成長や課題に気付くことができるようにしていく。</li> <li>・書く力を身に付けられるように、単語だけでなく文章などをワークシートなどに書く活動を多く取り入れていく。</li> </ul>
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の単元計画を見直し、系統立てた学習を6年間でやっていくことで、体力向上を目指していく。</li> <li>・泰明マラソンに向けたマラソン練習、縄跳び練習による持久力の向上を目指す。</li> <li>・泰明タイムを充実させ、主に投力や走力を高めるための運動に、年間を通して取り組めるようにする。</li> <li>・「マイスクールスポーツ」である持久走に取り組む。体育朝会では、短縄跳びや5分間走に取り組み、年間を通して持久力の向上を目指し、泰明マラソンへの意欲を高めていく。</li> </ul>
<b>②授業改善</b>	
取組 I	<p>管理職や教員同士による授業観察を行い、指導助言や資料提供等を行い、より児童が意欲的に学習に取り組めるよりよい授業を目指す。</p>

取組Ⅱ	学校評価の、児童・保護者による教師の授業における「理解」、「分かりやすさ」に関して、80%を上回るようにする。
-----	---

### ③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・銀座を中心にした地域と連携した活動について、保護者の協力を仰ぎ、数多く参加してもらうことを通して学校の経営方針や教育活動の理解を図る。より充実した活動の実現を目指す。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価等を通して、本校の教育活動への意見を吸い上げるとともに、その結果と対策をホームページや保護者会で公表する。家庭学習の徹底（90%以上）、挨拶や身だしなみなどの基本的な生活習慣（90%以上）の到達を目指す。</li> </ul>

### ④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色ある教育活動の「泰明マラソン」はマラソンカードなどで取り組み方を工夫し、楽しみながら体力を向上させるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトボール投げについては学年ごとに目標平均値を設定し、到達を目指す。体力テストの結果を基に、児童の運動能力と課題の実態を具体的に把握するとともに、効果的な指導方法や技術の習得の仕方を学ぶ体育実技研修を適宜設ける。</li> </ul>